

沖縄と岡山から民主主義と 安全保障を考える

昨年11月、沖縄県宜野湾市にある普天間飛行場の名護市辺野古への移転計画に反対する翁長雄志氏が沖縄県知事に当選し、この間、沖縄県民を代表して普天間基地撤去、名護市辺野古移転反対の民意を政府に届けようとしてきました。本年4月5日、翁長知事と菅官房長官が初めて会談し、4月17日には安倍首相と翁長知事との初会談が行われましたが、首相、官房長官は名護市辺野古への移設が唯一の解決策と述べ、翁長知事は、市長選挙、知事選挙、衆議院選挙に示された新基地反対の民意を踏まえ絶対に新基地を作らせないと述べて、議論は平行線に終わりました。

日本の国土の0.6%の沖縄県に在日米軍施設の74%が集中し約2万5000人の米兵が駐留、普天間基地は住宅密集地にあるため世界一危険な基地とされ、米兵による犯罪が発生しても日米地位協定によって米国が身柄引渡に応じないなど、沖縄県民にとって米軍基地は深刻な問題です。にもかかわらず、本土の私達は、沖縄地域振興予算を配分しているのだから基地負担はやむを得ないのではないか、普天間基地の危険性を除去するためには辺野古移設は仕方ないのではないかなどと、他人事と考えているところがあるのではないのでしょうか。

しかし、沖縄県民が普天間基地の撤去を求め、辺野古移設に反対しているのは、必ずしも基地の県外移設によるたらい回しを目的としているわけではありません。日米安全保障の観点から海兵隊を主力とする在沖縄米軍をグアムに移転するという考えも有力です。沖縄に関わる問題については沖縄県民の考えを尊重してわが国の安全保障政策を進めて欲しいというのは当然のことです。

私達はこれまでわが国政府と本土マスコミの流す情報をもとに沖縄を見てきました。

しかし、私達が与えられる情報に歪みがかかっていたり、私達自身が沖縄について偏った見方をしているとしたら、今、問題となっている沖縄の問題の本質を見誤ることになります。

岡山弁護士会では、沖縄で基地問題に取り組んで来られた安次富浩さんと加藤裕さん、「外交にさまざまな声を届ける」という理念のもとに活動を続ける「新外交イニシアティブ」事務局長の猿田佐世さんをお招きして、なぜ沖縄県民は普天間基地の撤去を求め辺野古への移設に反対しているのか、沖縄の米軍基地問題を踏まえて日本の安全保障政策はどうあるべきか、現在わが国政府が進めている集団的自衛権行使に向けた諸施策にどのように対抗していけばよいのかなど喫緊の問題について語ってもらうことにしました。沖縄発の生の情報に触れて、これからの日本のあり方を一緒に考えてみませんか。

会場周辺地図とアクセス



【会場】
〒700-8634 岡山市北区柳町2-1-1
山陽新聞社本社ビル1階
さん太ホール

【アクセス】
● JR岡山駅から徒歩15分(市役所筋を南へ下る)
● 路線バス5分(「山陽新聞社前」下車)

公共交通機関をお使い下さい。

【お問い合わせ先】
086-223-4401
(岡山弁護士会)